

「外国人」って、  
だれのこと？

多文化共生講演会

特集  
多文化共生



世界のレストラン「日本料理」



笹川ふれあい春まつり

# 多文化共生社会をめざして ～すべての人が安心して暮らせる地域づくり～

多文化共生とは、国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的違いを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員としてともに生きていくことをいいます。

同じ地域に住む者同士、日本人市民も外国人市民も文化的な違いを認め合いながら、互いに顔の見える関係を築くことは、地域福祉や防犯・防災など、支え合いによるさまざまな取り組みを行う上で欠かせません。この特集が多文化共生を考えるきっかけになればと思います。



## 住んでみた感想は？



ブラジル  
出身

20年ほど前、日本に来たときは日本語が話せず、病院に行ったときに症状を説明することができずに困りました。3年前から日本語を勉強して話せるようになってきました。

話せても、書くことが難しいので、これからは書くことを頑張ります。



台湾出身

6年前に来日した時は日本語が全く分からなかったのですが、子どもの病気で病院に行った時に、先生や看護師が英語で話し掛けてくれるなど優しい対応をしてもらえて、よかったです。

図書館や公園など四日市には子どもの遊ぶ所がたくさんあって、子育てがしやすいので、住みやすいです。



アメリカ  
出身

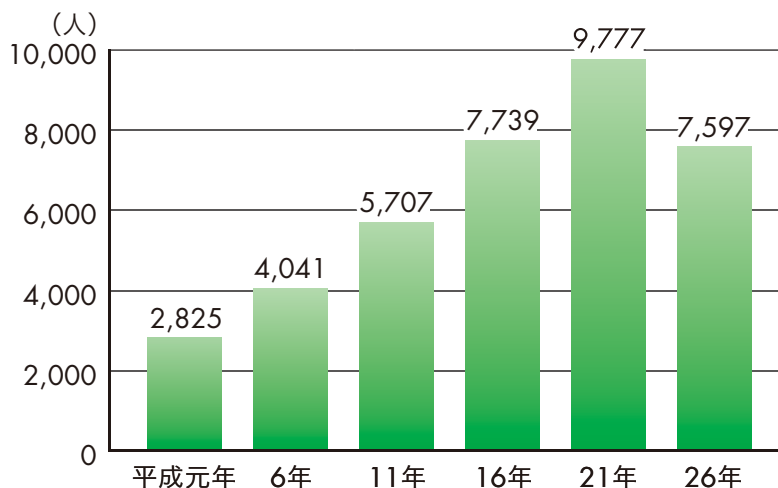
3カ月前に来日しました。母親が日本人なので、話すことはできるのですが、漢字の読み書きが難しいので、現在勉強中です。

今まで何度も日本には来ていたのですが、桜の花が咲いている時に来たことが無かったので、今年初めてお花見ができてとてもうれしかったです。四日市はいろいろな観光地からも近いので、旅行にも行きやすくていい所だと思います。

## 四日市の現状

■四日市市の外国人住民登録者の推移

各年3月末現在  
(平成元年は10月末現在)



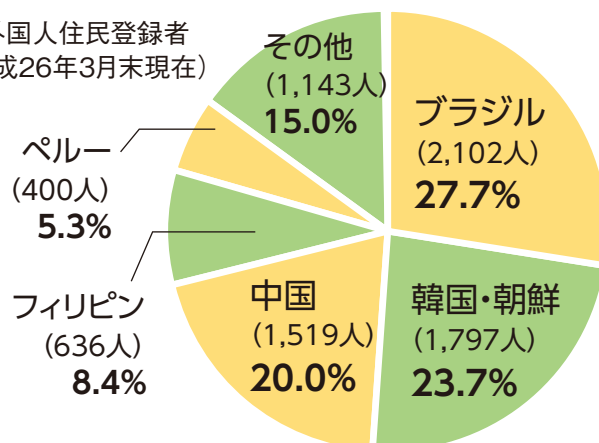
平成2(1990)年の「入国管理法及び難民認定法」の改正で、日系2、3世およびその家族は、活動制限のない「定住者」という在留資格を取得できるようになりました。

製造業の集中する東海地方にブラジルを中心とした南米から多数の外国人が仕事を求めて来日し、市内や周辺地域に外国人が就きやすい製造業などの仕事が多いことから、外国人市民の数が増えました。

■四日市市の外国人住民登録者  
7,597人(平成26年3月末現在)

外国人住民登録者数は平成20(2008)年のリーマンショック以降減少傾向となっていますが、県内では最も多くなっています。

また、市内には約55カ国の国から来日した人たちが住んでいますが、ブラジルなど上位5カ国で85%を占めています。



## 多文化が出会い、 理解し合う共生の場 多文化共生サロン



出前講座

笹川地区の外国人市民の定住化に伴い、多文化共生モデル地区と位置付け、外国人市民も地域の構成員として地域づくりを担えるよう、多文化共生サロンを設置しています。住民同士の交流機会の提供、多文化共生にかかる情報提供や行政などへの窓口案内(ポルトガル語・スペイン語対応)とともに、日本語教室を開催しています。



生活講座



着付け講座

## 各種セミナーなど

### 防災セミナー

外国人市民の中には、地震などの災害を経験したことがない人や、日本語が分からない人も多くいることから、災害に対して正しい知識を身に付け、発災時に自ら正しい行動をとれるようにするとともに、住民同士の「共助」の大切さなどを学んでもらっています。



### 生活オリエンテーション

多言語化したパンフレットの作成・配布や、外国人市民と対面して行政情報や生活上のルールなどを説明する生活オリエンテーションを実施し、外国人市民への情報提供を行っています。





多文化共生  
サロンでの  
書道教室



YIC茶道教室  
(手づくりした和菓子)

## 日本語学習・行政相談などでサポート 四日市国際交流センター(YIC)

外国人住民を対象に、無料の行政相談や法律相談を行っているほか、異なる文化を理解するためのイベントや市民ボランティアによる日本語教室など、さまざまな取り組みを行っています。

また、双方の理解を深めるために、外国語講座なども開催しています。

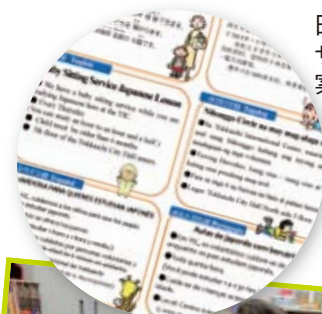


コーヒープレイク(さまざまな国の文化を  
その国の言葉で話してもらいます)



YIC日本語サークル

YIC日本語サークルには、  
託児付きもあります



日本語  
サークルの  
案内チラシ



## 始めてみませんか？日本語ボランティア

市役所5階の多文化共生推進室では、市内の日本語教室で、ボランティアとして外国人市民に日本語を教えていただける人を募集しています。経験や語学力は問いません。

| 場 所                               | 日 時                                                     |
|-----------------------------------|---------------------------------------------------------|
| くすのき日本語教室(なやプラザ:蔵町)               | 毎週日曜日 9:30~11:30                                        |
| 四日市日本語サークル(中部地区市民センター:西浦一丁目)      | 毎週水曜日 19:20~20:45                                       |
| 地域社会で豊かに暮らすための日本語教室(笹川東小学校:笹川六丁目) | 毎週火曜日 19:30~21:00                                       |
| 日本語教室(多文化共生サロン:笹川六丁目)             | 毎週月~金曜日 10:00~11:30、13:30~16:30<br>第2・第4日曜日 10:00~11:30 |
| 日本語・生活文化サポート教室(多文化共生サロン:笹川六丁目)    | 毎週月・水・金曜日 15:00~16:30                                   |
| YIC日本語サークル(四日市国際交流センター:諏訪町)       | 開館時間中(月曜・祝日は休館) 9:00~17:00                              |
| 笹川子ども教室(UR笹川中央第1集会所:笹川六丁目)        | 毎週水曜日 14:45~16:30/毎週土曜日 9:30~11:30                      |

## 多文化共生を支える人たち



放課後の子どもの学習支援を行う「笹川子ども教室」を開催するほか、防災知識や災害が起こった時に自ら行動するために、災害に対する心構えなどを書いた防災ノートを市と協力し作成し、防災訓練の時に活用しています。

笹川を「住みたいまち」にするために、地域でさまざまな活動をしています。

将来、笹川のまちづくりの担い手となる子どもを地域で育てることが必要と考え、ボランティアの協力を得ながら、放課後の子どもの学習支援を行う「笹川子ども教室」を以前から開催しています。昨年度からは、市、教育委員会、小・中学校と連携し、外国人の子どもだけでなく笹川に住む子どもに対象を広げ、学習習慣が身に付くよう力を入れています。

多文化共生は、それぞれの文化を尊重するだけでは、推進されません。日本語を覚えたり、日本文化や社会のルールなどを理解し、外国人市民も地域の一員となってもらえるよう、笹川に住む人が一緒になって多文化共生を進めていくことが大切です。

これからも、笹川に住む人みんなが、住んでいてよかったと思えるまちづくりに取り組んでいきたいと思っています。

笹川連合自治会  
会長 朝妻 泰孝さん

### 外国人世帯の実態把握や多文化共生のための事業の企画・運営をしています。

多文化共生モデル地区担当コーディネーターの仕事は、地域の日本人市民と外国人市民の橋渡し役となることです。

まず、外国人市民の中に入り込むにはどうしたらよいか考え、笹川UR事務所の多文化共生アドバイザーさんと連携して、一緒に個別訪問を始めました。お互いに言葉が通じないことが壁になっていると考えましたが、意外に簡単な日本語で話をするので外国人市民が多いと思いました。

外国人市民が地域の一員として自立した生活を送るためには、日本語習得は不可欠です。難しい表現を避け、誰にでも分かりやすい「やさしい日本語」を活用して、丁寧な説明を行っていくことで、外国人市民の日本語習得を促進していくことが必要だと思っています。

また、まちづくりには住民同士の「顔の見える関係」を築き、相互に信頼できることが大切だと感じています。日常のあいさつから始め、一人でも多くの住民に多文化共生の理解と協力を得られるように活動を続けていきたいと思っています。



多文化共生モデル地区担当  
コーディネーターの二人  
関島 博さん(写真左)

団地や公園の清掃活動などを行っています。

AVANTE SASAGAWAは2年ほど前に、笹川に住んでいる日本人も外国人も住みやすい環境にするにはどうしたらいいか話し合う会議を開いたのがきっかけで結成されました。

みんなの仕事が休みになる週末に団地の階段の掃除や、公園の清掃などの活動を行っています。メンバーはポルトガル語を話す人や、スペイン語を話す人、日本人とさまざまですが、活動の合間の休憩時間は日本語で会話をするようにしているので、日本語の勉強もできて、顔見知りも増え、自然とあいさつができるようになってきました。

私たちの活動をきっかけにして、みんなが一つになって、笹川を住みやすいところにしていう気持ちを持ってもらい、自然にコミュニケーションがとれるようになることを目標に、これからも活動を続けていきます。



アバンテ ササガワ  
AVANTE SASAGAWA  
代表 佐藤リョウイチさん

生活関係などの相談に乗ったり、フィリピンからの情報を発信しています。

FCOYは5年ほど前に、日本での生活に困っている人を助けたい、他のコミュニティと交流を通じて、つながりを持ちたいという思いで結成しました。

私自身も日本に来た時に、言葉が分からず苦労したので、みんなが抱えている生活関係などのさまざまな問題の相談に乗ったり、県内の他のフィリピン人のコミュニティと協力し合って、フィリピンの事を知ってもらうためのイベントを開催し、その収益から寄附をしています。

また、フィリピンの新聞や領事館からの情報も発信しています。

情報を広く伝える事や、活動を知ってもらい、気軽に相談に来てもらえる環境づくりなど、大変な事もありますが、一人でも多くの人を助ける事を目標に活動を続けていきたいと思っています。



エフコイ  
FCOY  
アナベル タケヤマ  
会長 ANABEL C.TAKEYAMAさん

日本の文化を知るために、さまざまな団体と一緒に活動をしています。

4年前に日本に来た時には、日本語や手続きも分からず、周りに友達もいなかったのが苦労しましたが、先輩や学校の先生に相談するなどして、乗り越えました。

今は大学に通いながら、とんてき協会の皆さんと一緒に四日市とんてきを全国に広める活動をするなど、さまざまな団体と一緒に活動しています。

また、去年は日本の文化に触れる事を目的に、大入道山車保存会の皆さんと一緒に大入道の山車を引きました。それまでは見ていただけだったので、とても楽しかったです。

大学に行く傍らアルバイトをしています。働くのも初めてで、面接も全て日本語だったので、緊張しましたが、アルバイト先では、学校の友達とは違う話が聞けるので、とても楽しいです。

今後もさまざまな体験や経験をして、母国の中国と日本の架け橋になれるような仕事に就き、自分の力を発揮したいと思います。



四日市大学  
ツウラガ  
留学生 通拉嘎さん

#### 編集後記

今回いろいろな人にインタビューを行って、多くの人が自分の住んでいるまちをよくするために活動をしていただいていることが分かりました。今回の特集が、身近なところから行動を始めるきっかけになればと思います。

(多文化共生推進室 浅野、広報広聴課 丹羽)